

平成 21 年度 日野市立図書館の
運営の状況に関する評価書
(平成 20 年度事業)
くらしの中に図書館を
—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 21 年 9 月
日野市教育委員会図書館

1 はじめに

国は行政機関が行う政策を客観的かつ厳正に評価を行い、その結果を政策へ適切に反映を図るとともに、政策の評価に関する情報を公表し、効果的かつ効率的な行政の推進に資することなどを目的に、平成 14 年 4 月、「行政機関が行う政策の評価に関する法律」を施行しました。また、「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」（平成 18 年 8 月 31 日、総務省）などでは、行政組織運営全般について、住民の意見を反映する仕組みを整えた上で、P D C A サイクル（※）に基づく、事務事業の検証を求めています。

日野市では、これら国の動きや第 4 次日野市基本構想・基本計画「日野いいプラン 2010」とともに創りあげるまち」に基づき、平成 16 年度に行政評価制度を導入しました。しかし、市全体の中での評価では、個別具体的な図書館運営に関する評価が上手く成されていないのが実情でした。

「これからの図書館像 地域を支える情報拠点をめざして」（平成 18 年 3 月、文部科学省 これからの図書館の在り方検討協力者会議）でも図書館サービスの評価を実施し、公表、活用することを示しています。さらに、平成 20 年に「図書館法」が改正され、図書館の運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めること。また、図書館奉仕に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該図書館の運営に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならないこととされました。

そのため、図書館では、平成 21 年 3 月 31 日に、「日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成 21 年度から図書館の運営状況に関する評価を実施することにしました。

※P D C A サイクルとは、計画（P l a n）を実施（D o）し、評価（C h e c k）して、改善（A c t）に結びつけ、その結果を次の計画に生かす（フィードバック）プロセスをいいます。

2 評価の目的

図書館の取組事業の目標・手法・成果等をしっかりと把握した上で、図書館の運営の状況に関する評価を市民参画（図書館協議会）で実施することにより、取組事業を振り返り、そして、見直しを行い、効果的かつ効率的で、市民に信頼される図書館運営を推進するものです。

さらに、市民にこれらの情報をありのままに公開することにより、「市民に開かれた図書館」にとどまらず、「市民とともに作り上げる図書館」を目指します。

3 図書館の現状

(1) 施設

施設の名称	延べ床面積	現館の開館日	所在地	蔵書規模
中央図書館	2,220 m ²	昭和 48. 4. 28	豊田 2-49-2	251 千冊
移動図書館	1 台 (18 駐車場)	昭和 40. 9. 21	同上	35 千冊
高幡図書館	1,358 m ²	昭和 55. 5. 11	三沢 4-1-12	90 千冊
日野図書館	422 m ²	昭和 55. 5. 18	日野本町 7-5-14	46 千冊
多摩平図書館	856 m ²	平成 16. 4. 1	多摩平 2-9 多摩平の森ふれあい館 1 階	80 千冊
平山図書館	412 m ²	平成 20. 4. 5	平山 5-18-2 平山季重ふれあい館 1 階	55 千冊
百草台児童図書館	61 m ²	昭和 47. 4. 5 (休館中)	百草 999 もぐさだい児童館 2 階	10 千冊
市政図書室	140 m ²	昭和 52. 12. 1	神明 1-12-1 日野市役所 1 階	40 千冊
百草図書館	759 m ²	平成 2. 11. 16	百草 204-1 ガーデンプレビュー石神 D2 階	72 千冊

※平成 21 年 4 月現在

(2) 組織・職員

1 課 3 係（庶務整理・業務・奉仕）、7 分館

職員 40 人（うち司書 28 人）

(3) 主な業務

- ・図書館資料の収集、整理及び保存
- ・個人貸出、団体貸出

- ・読書案内及び読書相談
- ・レファレンス
- ・読書会、研究会、講習会、鑑賞会、映写会、資料展示会等の主催及び奨励
- ・館報その他の読書資料の発行及び頒布
- ・図書館資料の図書館間相互貸借
- ・市内の学校図書館への資料提供と協力
- ・地方行政資料の収集及び提供

4 図書館の評価方法

(1) 評価方法

平成 21 年 5 月 18 日（月）開催の第 1 回図書館協議会に評価方法、評価を行う取組事業、評価表を提示し、意見をいただき、下記のように評価を行うこととしました。

- ① 各評価対象事業別に、各図書館担当者が 1 次評価を行い、図書館係長会に諮り、図書館としての自己評価（案）を作成する。
- ② 図書館の自己評価（案）を第 2 回図書館協議会の開催 1 週間前までに、各図書館協議会の委員に送付する。
- ③ 図書館協議会委員は、送付された図書館の自己評価を点検するとともに、第 2 回図書館協議会で意見等を述べる。
- ④ 図書館は出された図書館協議会委員の意見等に基づき委員長と協議して、修正を加えた評価表を各図書館協議会委員に送付する。この評価表に図書館協議会委員から、再度意見が出された場合は、再び委員長と協議し、評価表に反映させる。
- ⑤ 図書館協議会の意見を反映した評価表を図書館評価報告書としてまとめ、9 月に開催される日野市教育委員会に報告した後、市議会に情報提供する。
- ⑥ 図書館ホームページ及び各図書館で図書館評価報告書を市民に公表する。

(2) 評価を行う取組事業

「日野市立図書館基本計画」の重点的な取り組みや文部科学省が提示する「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」から抽出した、下記の6つの取組事業について評価を行うこととします。

- ① **すべての利用者への基本的なサービスの一層の向上を図ります（児童・青少年サービス）**
- ② **すべての利用者への基本的なサービスの一層の向上を図ります（成人・高齢者サービス）**
- ③ **すべての利用者への基本的なサービスの一層の向上を図ります（障害者サービス）**
- ④ **資料の選択・収集及び資料提供を核とする図書館の基本を大切にします**
- ⑤ **時代に合わせて既存施設の改修を進めます**
- ⑥ **関係機関との連携・協力の強化を図ります**

(3) 評価表

評価表は、評価の目的である事務事業の振り返りと改善の道具であるという観点から、シンプルなものとし、今後、毎年度評価を重ねていく過程で、連続性を考慮した上、適宜見直しを図っていくこととしました。

評価表の各項目は下記のとおりです。

- ① 取組事業名：取組事業名、事業開始年度
- ② 取組事業の概要：事業目的、20年度の事業目標と事業成果、事業の課題・問題点
- ③ 事業費の推移：事業費、人件費、特定財源、一般財源
- ④ 指標・コスト：活動指標（アウトプット）、成果指標（アウトカム）、単位コスト※成果指標の設定については今後の課題とする
- ⑤ 参考基準・数値：文科省基準・図書館専門委員会参考数値
- ⑥ 評価：事業目的に対する効果、事業の効率性、今後の方向性、評価意見等、次年度以降の取り組み

5 評価の結果と今後の対応

図書館協議会からいただいた意見を反映した図書館の自己評価は、評価表 1～6 のとおりです。自己評価と評価意見等のまとめは、以下の「評価のまとめ」のとおりです。

平成 20 年度の図書館運営の特徴は、貸出数が、児童、成人とも前年度を大きく上回ったことです。これは、新平山図書館の開館や京王線沿線七市連携の開始などによる影響が大きいと思いますが、図書館システムの更新やホームページの充実など、日頃からの地道な取り組みの結果ではないかと考えます。受入冊数も図書費予算が大幅に減額された中、目標としていた 4 万冊を超えることができました。また、百草図書館の空調機改修や高幡図書館の 2 階ギャラリーの照明増設などを行い、市民サービスの増進が図られました。このように全般的には、事業の効率性も良く、その事業目的に対する効果も高いと判断しました。しかし、障害者サービスや視聴覚資料の収集など、まだ充分とはいえない事業もありました。

今回、「図書館法」に基づく図書館の運営の状況に基づく評価を始めて実施しました。市民の代表である図書館協議会の意見等をいただきながら、評価表や報告書を作成しましたが、草案作成の遅滞や会議日程の制約もあり、必ずしも完成したものとはなっておりません。指標が適当なのか、目標値が適正なのか、などなど課題が山積です。次回の評価ではこれらのことを改善してまいります。

評価は、評価すること自体が目的ではなく、評価に基づきよりよい図書館につなげるために事業の見直し等を図ることが目的です。この評価により、課題や問題点が明らかにされ、今後の方向性や取組みが示されたわけですから、その実現に向けて図書館職員一丸となって努力し、来年度の評価では、少しでも目標に近づくように取組んでまいります。

今回の評価表の中で課題となった成果指標（アウトカム）については、指標が設定できるように今後、利用者調査等の実施を検討します。また、分館ごとの評価表も今後の課題とします。

なお、次回の図書館評価においては、図書館協議会の委員から評価対象の取組事業ごとに具体的な意見をいただくこととします。

《評価のまとめ》

No.	取組事業名	自己評価			評価意見等
		事業目的に対する効果	事業の有効性	今後の方向性	
1	すべての利用者への基本的なサービスの一層の向上を図ります（児童・青少年サービス）	大きな効果があった	効率がよい	拡大・充実	・新平山図書館の開館などにより、児童図書貸出数が対前年度比で 12%増加した。 ・児童登録率が前年度と比べ 0.55 ポイント上昇した。 ・新平山図書館に子どもたちがゆったり読書が楽しめる「こどものひろば」を設置できた。
2	同（成人・高齢者サービス）	大きな効果があった	効率がよい	拡大・充実	・新平山図書館の開館、日野図書館、多摩平図書館の利用増により、成人貸出数が対前年度比で 9%増加した。成人登録率が昨年度と比べ 0.49 ポイント上昇した。 ・日野宿発見隊事業やひの写真散歩事業などにより、市民とともに歩む図書館を実践した。 ・第 3 次行革大綱実施計画に基づく職員の嘱託職員化（18～20 年度で 8 人）を完了した。
3	同（障害者サービス）	大きな効果があった	やや効率が悪い	見直して拡大・充実	・障害者サービス登録者が昨年度と比べ 9%増加した。 ・録音図書作成タイトル数が昨年度と比べ大幅に増えたが、まだ充分とはいえない。 ・障害者サービス貸出資料の電算化が成されていないため、事務の効率が悪い。
4	資料の選択・収集及び資料提供を核とする図書館の基本を大切にします	大きな効果があった	効率がよい	拡大・充実	・受入冊数は、目標としている 4 万冊を超えることができた。購入タイトル数は目標を若干下回った。 ・週 1 回、本の選択委員会を行い、市民の読書活動に応えられる図書の収集に努めた。
5	時代に合わせて既存施設の改修を進めます	限定的な効果があった	やや効率が悪い	拡大・充実	・財政的理由などにより、老朽化した施設設備の改修が進んでいない。 ・高幡図書館の 2 階ギャラリー照明増設、百草図書館の空調機修繕などを行い、市民サービスの増進に努めた。 ・移動図書館車をハイブリッド車で更新した結果、環境負荷の低減を図ることができた。
6	関係機関との連携・協力の強化を図ります	大きな効果があった	効率がよい	見直して拡大・充実	・京王線沿線七市図書館連携事業の開始により、本市図書館から離れた行政境周辺市民などの利便性が上がった。 ・都立図書館改革の見直しを市町村立図書館長協議会の一員として要望した。

図書館事業評価表 20年度

事業No.	1
事業担当係	業務係・児童奉仕グループ
記入者氏名	猪俣 恵子

1. 取組事業名

2009/11/10 15:21

取組事業名 (図書館基本計画から)	すべての利用者への基本的サービスの一層の向上を図ります (児童青少年サービス)	事業開始年度	昭和 40	年度
----------------------	--	--------	----------	----

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	「図書館基本計画」「日野市子ども読書活動推進計画」に基づきサービス、資料の充実に努める。 1 乳幼児サービス) ①乳幼児が本を手にとったり、読んだりしやすい工夫する。②乳幼児が集まる施設ではなし会の開催がスムーズに行われるよう図書館員がサポートする。③保育園・幼稚園への団体貸出を拡充④保護者・保育関係者からの読書に関する相談の受け付けや講座等を充実する。 2 児童サービス) ① 児童の調べものに必要な資料を整える。特に、地域について調べる資料を図書館が作成する②児童への読み聞かせなど、子どもの読書にかかわる活動を引き続き支援する。③日本語を母語としない児童、海外帰国児童に外国語資料を提供する。 3 青少年へのサービス) ①図書のコナーを設け資料を充実させる。②青少年がコナーの運営に関わる機会を設ける。③資料・情報提供により、青少年の就業を支援する。
-------	---

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

・児童の読書離れが進む(児童登録率の低下)一方で児童図書の貸出冊数は増加。読む人は、一層多読となり、読まない人は全く読まないといった二極化を呈している。今後は、学校、児童関連施設、地域などと連携した子どもの読書活動を展開する。

20年度の事業目標(どのような目標を設定したのか)	20年度の事業成果(当該年度の実績数値など)
①中央・高幡・多摩平・百草図書館で「おはなし会」を毎月1~3回行う ②「あたらしい本」(児童)を年1回以上発行する ③要望に応じて出張おはなし会・小学校訪問を行う ④夏休みジュニアスタッフ事業を行う ⑤日野宿発見隊こども発見隊事業を行う ⑥児童図書を充実する ⑦児童図書の貸出冊数を増やす	①「おはなし会」… 89回、のべ 2,359人 ②「あたらしいほん」(児童)…2回発行、7,000部 ③出張おはなし会…40回 小学校訪問…16校47クラス ④夏休みジュニアスタッフ事業… 参加延べ101人 ⑤日野宿発見隊こども発見隊… 1回 参加21人 ⑥児童図書の充実…年間受入冊数 8,388冊(年間除籍冊数 5,476冊)、蔵書冊数 152,580冊 ⑦児童図書の貸出冊数… 431,110冊(児童関連施設への移動図書館車による団体貸出し15,898冊含)他に保育園幼稚園への配本延べ51回1,980冊 学校への搬送業務延べ237回12,231冊

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

学校図書館支援・子ども読書活動推進用図書予算は前年度比2割減の200万円となり年々減少傾向にある。内訳は多摩平図書館ヤングコーナー用図書70万円、調べ学習・読書指導用図書115万円、幼稚園保育園用配本図書15万円。年々増加する小中学校からの貸出し依頼に充分答えられる蔵書構成を行うため、選書にはより一層力を注ぎ、出版社を招いての図書の展示会を開くなど内容を充分検討した上で購入を決定する。

3. 事業費の推移(円)

項 目		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度事業費の 決算の内訳
支出	事業費	25,128,326	27,403,224	29,211,905	- 嘱託職員報酬 - 図書費 - 学校図書館支援事業経費 - 子ども読書活動推進支援経費
	職員人件費(1人888万円)	79,920,000	79,032,000	78,144,000	
収入	国支出金				
	都支出金				
	使用料・手数料等(受益者負担額)				
	その他特定財源				
一般財源		105,048,326	106,435,224	107,355,905	
総事業費		105,048,326	106,435,224	107,355,905	
当該事業に要する 職員の業務量(人)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度課の職員数 (課長・臨時職員除く)
		9	8.9	8.8	41

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	児童図書貸出数	冊	424,800	435,500	440,000	19年度ベース	1％
実績値（B1）		冊	361,084	385,484	431,110	19年度ベース	12％
達成度（C1=B1／A1×100）		％	85	89	98	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	291	276	249	事業費	614

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	児童登録率	％	25.52	25.52	25.52	19年度 ^へ － _ス	0％
実績値（B2）		％	25.52	24.31	24.86	19年度 ^へ － _ス	2％
達成度（C2＝B2／A2×100）		％	100	95	97		
単位コスト	事業単価	円	—	—	—		

成果指標(アウトカム)目標・実績							
(当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)							
区 分	成果を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較(%)	
目標値(D)	利用者満足度					19年度ベース	
実績値(E)						19年度ベース	
達成度(F=E/D×100)		%					
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値	
○児童・青少年に対するサービスの充実に資するため、必要なスペースを確保するとともに、児童・青少年用図書の収集・提供、児童・青少年の読書活動を推進するための読み聞かせ等の実施、情報通信機器の整備等による新たな図書館サービスの提供、学校等の教育施設との連携の強化等に努めるものとする。	

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ やや効率が悪い	☒ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☐ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	評価意見等	・新平山図書館の開館などにより、児童図書貸出数が対前年度比で12%増加した。 ・児童登録率が前年度と比べ0.55ポイント上昇した。 ・新平山図書館に子どもたちがゆったり読書が楽しめる「こどものひろば」を設置できた。	
次年度以降の取組み		・「日野市立図書館基本計画」や「日野市子ども読書活動推進計画」に基づき、引き続き青少年の読書活動を図書館が中心となって推進する。 ・21年度については、引き続きおはなし会や学校訪問などを行うほか、文部科学省の子ども読書応援プロジェクト・子ども読書地域スクラム事業を受託し、読書離れが懸念される青少年自らが、「薦めたい本の書評・選定・リスト作成・展示会」を行うとともに、著者の講演会を企画し、子ども読書活動を推進する。	

図書館事業評価表 20年度

事業No.	2
事業担当係	業務係
記入者氏名	篠田 友子

1. 取組事業名

2009/11/10 15:30

取組事業名 (図書館基本計画から)	すべての利用者への基本的サービスの一層の向上を図ります (成人・高齢者サービス)	事業開始年度	昭和 40	年度
----------------------	---	--------	----------	----

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	「図書館基本計画」により、成人・高齢者サービスの充実に努める。 ・成人サービス…①生活や仕事など、様々な解決を援助できる図書館を目指します。②地域の特性や施設の特徴、他施設との連携を活かした図書館サービスを展開します。③子ども連れで来館しても、利用しやすい環境を整備します。④次の世代に伝えるべき基本的資料を、日野市立図書館の保存対象とします。⑤ボランティアなど、図書館運営に関わる仕組みを作ります。 ・高齢者サービス…①高齢者の利用に適した図書館資料を増やします。②高齢者の居場所としての快適性を高めます。③来館の困難な高齢者には、資料の配達を行います。④高齢者の集まる施設との連携を進めます。⑤団塊世代、シルバー世代に図書館で活躍できる場を提供します。
-------	--

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

すべての市民が図書館サービスを受けられる態勢を整え、且つ、サービスを充実させ、図書館基本計画で掲げた基本理念である、『くらしの中に図書館を一市民に役立ち、共に歩む図書館一』を実現してゆく。

20年度の事業目標(どのような目標を設定したのか)

- ①資料(図書・雑誌・視聴覚資料)を充実させ、貸出による資料提供を行う。
- ②資料相談や参考調査に応え、市民に役立つ資料・情報コーナーの設置を行う。
- ③地域の特性や施設の特徴、他施設との連携を活かした図書館サービスを展開する。
- ④平山図書館リニューアル
- ⑤開館日時拡充
- ⑥ボランティアなど、図書館運営に関わる仕組みを作る。
- ⑦来館の困難な高齢者には、資料の配達を行う。

20年度の事業成果(当該年度の実績数値など)

- ①一般資料…図書年間受入冊数 32,409冊(年間除籍冊数 16,699冊)、蔵書 596,606冊、購入雑誌…511タイトル CD・ビデオ等保有数…3,685点
- ・貸出…図書 1,171,198冊 CD・ビデオ等 17,115点
- ・成人利用登録者…34,147人 延べ利用者…454,280人
- ②参考調査・資料相談…6,600件 テーマ図書展示…25回
- ③日野宿発見隊、平山季重コーナー設置、百草倉沢散策マップ作成協力
- ④平山図書館リニューアル
- ⑤平山図書館夜間開館実施 蔵書点検のための休館日の廃止…年間開館日数 307日
- ⑥ボランティア参加…資料の点訳・音訳・日野宿発見隊・ひの写真散歩・中央図書館環境美化・資料の宅配
- ⑦高齢者宅配(ボランティア)…62人へ 488回

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

・資料費の不足により、高額な資料は購入を見送ることが多い。・建築が古い、中央、高幡、日野図書館はスペースが狭く、十分な机や座席数が無く、調べものや閲覧の滞在利用に不便である。また、成人室から隔たった児童スペースを設けることができず、子どもが利用しづらい。・多摩平、平山を除く館は、開架書架スペースが大幅に不足し、資料を短期間で徐架しなくてはならない。・開架から徐架した資料の保存スペースが大幅に不足し、資料の保存が充分でない。・中央図書館、高幡図書館、日野図書館には、利用者用エレベーターが無く、不便である。

3. 事業費の推移(円)

項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度事業費の 決算の内訳
支出				・嘱託職員報酬 ・新聞、雑誌、視聴覚資料費(消耗品費) ・データベース使用料 ・図書費 ・日野宿発見隊事業経費
事業費	84,541,412	99,824,813	99,525,470	
職員人件費(1人888万円)	243,312,000	225,552,000	215,784,000	
収入				
国支出金				
都支出金				
使用料・手数料等(受益者負担額)	2,225,740	2,163,870	1,967,040	
その他特定財源			1,000,000	
一般財源	325,627,672	323,212,943	312,342,430	
総事業費	327,853,412	325,376,813	315,309,470	

当該事業に要する 職員の業務量(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度課の職員数 (課長・臨時職員除く)
	27.4	25.4	24.3	41

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	成人貸出数	冊	1,289,500	1,290,000	1,295,000	19年度ベース	0%
実績値（B1）		冊	1,099,325	1,092,764	1,188,313	19年度ベース	9%
達成度（C1=B1/A1×100）		％	85	85	92	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	298	298	265	事業費	1,802

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	成人登録率	％	25.00	25.00	25.00	19年度へーろ	0％
実績値（B2）		％	21.63	20.81	21.30	19年度へーろ	2％
達成度（C2=B2／A2×100）		％	87	83	85		
単位コスト	事業単価	円	—	—	—		

成果指標(アウトカム)目標・実績							
(当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)							
区 分	成果を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較 (%)	
目標値 (D)	利用者満足度					19年度ベース	
実績値 (E)						19年度ベース	
達成度 (F=E/D×100)		%					
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値	
○成人に対するサービスの充実に資するため、科学技術の進展や産業構造・労働市場の変化等に対応し、就職、転職、職業能力開発、日常の仕事等のための資料及び情報の収集・提供に努めるものとする。 ○高齢者に対するサービスの充実に資するため、高齢者に配慮した構造の施設の整備とともに、大活字本、拡大読書器などの資料や機器・機材の整備・充実に努めるものとする。また、関係機関・団体と連携を図りながら、図書館利用の際の介助、対面朗読、宅配サービス等きめ細かな図書館サービスの提供に努めるものとする。	

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☒ 大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ 効率が良い ☐ やや効率が悪い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 見直して拡大・充実 ☐ 維持・継続 ☐ 見直し
	評価意見等	・新平山図書館の開館、日野図書館、多摩平図書館の利用増により、成人貸出数が対前年度比で9%増加した。成人登録率が昨年度と比べ0.49ポイント上昇した。 ・日野宿発見隊事業やひの写真散歩事業などにより、市民とともに歩む図書館を実践した。 ・第3次行革大綱実施計画に基づく職員の嘱託職員化(18~20年度で8人)を完了した。
次年度以降の取組み		・資料の充実に図り、資料の貸出や資料相談、参考調査に応える。 ・環境・子育て・食育などの課題やさまざまなテーマ展示を行い、多様な資料の活かし方を示す。 ・地域、施設の特性や他機関との連携で、各館が特定課題に取り組み、全体のサービス向上を図る。 ・ボランティアなど、図書館運営に関わる仕組みを検討する。 ・子連れや高齢者が利用しやすく、快適な滞在性の高い環境整備を進める。

図書館事業評価表 20年度

事業No.	3
事業担当係	業務係
記入者氏名	嵩原香代子

1. 取組事業名

2009/11/10 15:30

取組事業名 (図書館基本計画から)	すべての利用者への基本的サービスの一層の向上を図ります (障害者サービス)	事業開始年度	昭和 48 年度
----------------------	--	--------	----------------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	「図書館基本計画」に基づき、①新しい技術・機器などを取り入れ、容易で効率的に資料・情報を利用できるようにする。②改修等の機会に、既存施設・設備のバリアフリー化を実現する。③点字講習やパソコン講習をさらに充実させる。④市政情報の点字版・録音化を進める。⑤病院への図書館サービスを進める。
-------	--

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

テープ録音に代わる、DAISY図書(デジタル録音図書)やパソコンの活用など、新しい技術・機器などを取り入れ、効率的に資料・情報を利用できる体制を整える。点字・大活字本の提供を行い、特に市政情報点字版・録音版化を進め、利用できる環境を確保する。そのために、全庁的な提供体制の確立を図る。病院の入院患者へのリクエスト資料の配本や、団体貸出しにより通院・入院患者が資料を利用できるように努める。障害のある人々に、点字講習、パソコン講習を充実させ、自ら資料・情報を利用できるよう援助する。

20年度の事業目標(どのような目標を設定したのか) 20年度の事業成果(当該年度の実績数値など)

①宅配、対面朗読などにより障害者が利用できる資料を提供する。 ②新たな録音テープ作成、新規や劣化している録音テープのDAISY化を行う。 ③音訳者講習会を行い、音訳やその技能向上を図る。 ④子どもの学びを援助し、点字をとおして障害というものを学ぶ機会を増やすため、出前点字授業を行う。 ⑤障害者への点字講習、パソコン講習を行い、自ら資料・情報を利用できるよう援助する。	①障害者へのサービス ・障害者サービス登録者数…個人153人 団体7団体 ・資料変換者登録者数…音訳者37人 点訳者20人 ・宅配サービス…利用者数62人 (回数…488回 貸出図書冊数…1,243冊 点字資料 197タイトル 巻数414 録音図書テープ 746タイトル 巻数4,422巻 録音DAISY 296枚) ・対面朗読…189件 511時間 ②資料作成…録音テープ 10タイトル DAISY 23タイトル ③音訳者講習会(中級 全3回) 受講者21人 ④点字授業 1クラス2時間 6校 ⑤点字指導 5人 197時間 パソコン指導 10人 258時間
---	---

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

・視覚障害者の利用が中心となっている面が多いので、今後は高齢者や障害のある児童へのサービスの拡充とさらに充実したサービスの提供を行っていく。

・DAISY化促進

・点訳グループ育成

3. 事業費の推移(円)

項 目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度事業費の 決算の内訳
支出				
事業費	3,649,107	3,249,905	3,454,295	
職員人件費(1人888万円)	21,312,000	21,312,000	21,312,000	
収入				
国支出金	0	0	0	
都支出金	0	0	0	
使用料・手数料等(受益者負担額)	0	0	0	
その他特定財源	0	0	0	
一般財源	24,961,107	24,561,905	24,766,295	
総事業費	24,961,107	24,561,905	24,766,295	・嘱託職員報酬 ・音訳者講習会講師謝礼 ・資料変換者謝礼 ・点訳システム借上料

当該事業に要する 職員の業務量(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度課の職員数 (課長・臨時職員除く)
	2.4	2.4	2.4	41

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	障害者サービス登録者数	人	133	140	144	19年度ベース	3％
実績値（B1）		人	136	140	153	19年度ベース	9％
達成度（C1=B1／A1×100）		％	102	100	106	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	183,538	175,442	161,871	事業費	142

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	録音図書作成 タイトル数	タイトル 数	5	22	21	19年度 ^へ －ス	－5%
実績値（B2）		タイトル 数	19	18	33	19年度 ^へ －ス	83%
達成度（C2=B2／A2×100）		％	380	82	157		
単位コスト	事業単価		—	—	—		

成果指標(アウトカム)目標・実績							
(当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)							
区 分	成果を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較 (%)	
目標値 (D)		枚				19年度ベース	
実績値 (E)		貸出				19年度ベース	
達成度 (F=E/D×100)		%					
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値	
○障害者に対するサービスの充実に資するため、障害のある利用者に配慮した構造の施設の整備とともに、点字資料、録音資料、手話や字幕入りの映像資料の整備・充実、資料利用を可能にする機器・機材の整備・充実に努めるものとする。また関係機関・団体と連携をはかりながら手話などによる良好なコミュニケーションの確保に努めたり、図書館利用の際の介助、対面朗読、宅配サービス等きめ細かな図書館サービスの提供に努めるものとする。	

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ やや効率が悪い	☐ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☒ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	評価意見等	・障害者サービス登録者が昨年度と比べ9%増加した。 ・録音図書作成タイトル数が昨年度と比べ大幅に増えたが、まだ充分とはいえない。 ・障害者サービス貸出資料の電算化が成されていないため、事務の効率が悪い。	
次年度以降の取組み		・録音資料のDAISY化を進める。 ・障害者サービス貸出資料の電算化を行い、事業の効率性の向上を図る。	

図書館事業評価表 20年度

事業No.	4
事業担当係	庶務整理係(受入担当)
記入者氏名	飯倉 直子

1. 取組事業名

2009/11/10 15:30

取組事業名 (図書館基本計画から)	資料の選択・収集及び資料提供を核とする図書館の基本を大切にします	事業開始年度	昭和 40	年度
----------------------	----------------------------------	--------	----------	----

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	「図書館基本計画」に基づき、適切な資料の選択・収集に努める。 ・図書・雑誌…①市民の地域活動・生活・仕事・余暇の充実に役立つ資料を収集、②各分野の実務者向け専門書や大学生向け教養書・専門書の収集、③各分野の基本的資料が直接手にとれる開架スペースを確保 ・視聴覚資料…①各分野の基本的資料、地域活動での利用を考慮して収集(媒体変化の動向を把握) ・電子資料…①インターネット閲覧端末や公衆無線LANの設置をPR、②商用データベースの導入を拡充 ・資料保存…①日野市に関わる資料の収集と永久保存、②次世代に伝えるべき基本的資料の保存、③書庫の確保、④都内公共図書館との資料保存の連携 ・情報公開…①資料の収集方針・選択基準・除籍基準を明文化し公開
-------	--

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

- ・市民の現在及び将来の利用に応え、図書館として揃えるべき資料を効果的かつ効率的に収集し、提供する。
- ・図書館利用の障害を取り除く。
- ・インターネット情報・商用データベースを充実させ、市民の情報格差の解消を図る。

20年度の事業目標(どのような目標を設定したのか)

20年度の事業成果(当該年度の実績数値など)

①中央館および各分館蔵書担当者による本の選択会議を週に1回行い、適切な資料選択・収集を行う。	①年間受入図書冊数…40,797冊(うち購入34,082冊) (廃棄冊数 22,175冊/蔵書冊数 749,186冊)
②年間継続購入雑誌の見直しを行う。	②年間継続購入雑誌タイトル数…511件
③視聴覚資料(CD)の選択・収集を行う。	③年間受入CD件数…128件(うち購入58件)
④商用データベースの導入拡充および利用者開放検討。	④契約データベース…タイトル数:5(契約回線数 6) *利用者開放検討のため他市視察(調布市・武蔵野市)
⑤地域資料の網羅的収集。	⑤市政図書室年間受入地域資料冊数…2,094冊(図書のみ)
⑥選択・収集方針・基準の明確化。	

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

- ・資料費が減少するなか、市民の要求に応えられるよう、資料の選択により精査が必要となっている。
- ・新たな形態の資料であるインターネット情報・商用データベースの充実が遅れている。
- ・資料保存のために必要な書庫の確保が不十分である。

3. 事業費の推移(円)

項 目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度事業費の 決算の内訳
支出				・嘱託職員報酬 ・新聞、雑誌、視聴覚資料費(消耗品費) ・新刊出版情報作成委託料 ・データベース使用料 ・図書費
事業費	68,644,073	73,948,486	70,162,408	
職員人件費(1人888万円)	27,528,000	27,528,000	19,536,000	
収入				
国支出金				
都支出金				
使用料・手数料等(受益者負担額)				
その他特定財源				
一般財源	96,172,073	101,476,486	89,698,408	
総事業費	96,172,073	101,476,486	89,698,408	

当該事業に要する 職員の業務量(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度課の職員数 (課長・臨時職員除く)
	3.10	3.1	2.2	41

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	受入冊数	冊	40,000	40,000	40,000	19年度ベース	0％
実績値（B1）		冊	40,302	42,506	40,797	19年度ベース	-4％
達成度（C1＝B1／A1×100）		％	101	106	102	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	2,386	2,387	2,199	事業費	513

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ (当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など)

区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	購入タイトル数	点	20,000	20,000	20,000	19年度ベース	0％
実績値（B2）		点	20,459	21,137	19,964	19年度ベース	-6％
達成度（C2＝B2／A2×100）		％	102	106	100		
単位コスト	事業単価	円	4,701	4,801	4,493		

成果指標(アウトカム)目標・実績 (当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)

区 分	成果を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（D）	利用者満足度					19年度ベース	
実績値（E）						19年度ベース	
達成度（F＝E／D×100）		％					
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値

・住民の要求に応えるため、新刊図書及び雑誌の迅速な確保並びに他の図書館との連携・協力により図書館の機能を充分発揮できる種類及び量の資料の整備に努めるものとする。また、地域内の郷土資料及び行政資料、新聞の全国紙及び主要な地方紙等多様な資料の整備に努めるものとする。

・多様な種類・内容の視聴覚資料の収集に努めるものとする。

・電子資料の作成、収集及び提供並びに外部情報の入手に関するサービス等に努めるものとする。

* (人口10～30万人) 「蔵書冊数」 547,353冊 / 「開架冊数(内数) 335,203冊 / 「開架における新規図書」 10.90%
「視聴覚資料点数」 18,809点 / 「年間購入雑誌数」 615冊

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☒ 大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ 効率が良い ☐ やや効率が悪い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 見直して拡大・充実 ☐ 維持・継続 ☐ 見直し
	評価意見等	・受入冊数は、目標としている4万冊を超えることができた。購入タイトル数は目標を若干下回った。 ・週1回、本の選択委員会を行い、市民の読書活動に応えられる図書の収集に努めた。
次年度以降の取組み		・「図書館基本計画」に基づき、引き続き適切な資料の選択・収集を行う。 ・雑誌購入タイトルの維持を図る。 ・選択・収集方針、基準の明文化および公開を行い、市民の読書活動に応えられる、各分野の質の高い図書の収集に努める。

図書館事業評価表 20年度

事業No.	5
事業担当係	庶務整理係
記入者氏名	強矢 秀夫

1. 取組事業名

2009/11/10 15:30

取組事業名 (図書館基本計画から)	時代に合わせて既存施設の改修を進めます	事業開始年度	平成 19 年度
----------------------	---------------------	--------	----------------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要（事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載）

事業の内容	「図書館基本計画」の第1章現状の項では、市民アンケートの分析結果として、「うるおいと憩いのある空間づくり」と「各種公共施設・商業施設との複合化による利便性」が挙げられ、現場の課題としても、「施設配置」「中央・高幡図書館の老朽化」「駐車場の確保」「各分館の課題」も指摘されている。このことから、市民が「子どもと高齢者を中心とした場の提供」や「書庫、公文書館機能を有した地域の情報拠点としての利便性の高い施設」を求めていることが読み取れる。そのために、第4章部門別計画2)施設計画の章で「三つの手法による新中央図書館」「各分館ごとの計画」「移動図書館車」の3つに分けて計画を立案している。しかし市の財政状況を考慮すれば、新施設の建設や大規模の改修は望めない現状であることから、当面は施設の修繕と小規模改善を中心に取り組む。
-------	---

事業目的（当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか）

新中央図書館構想として、①新たに建設、②現施設をリニューアルして規模拡大、③豊田南口に建設予定の複合施設に図書館機能を付加して現施設と一体的運営、の3案を掲げているが、当面は現中央図書館と分館・移動図書館車による運営とし、施設設備の計画的改修により、市民が安全で快適に利用できる図書館を目指す。

20年度の事業目標（どのような目標を設定したのか）

- ①平山図書館を平山季重ふれあい館の中に複合施設として開設する。
- ②一時休館中の百草台児童図書館のあり方を「図書館基本計画」に基づき検討する。
- ③中央図書館と高幡図書館は将来の改修を念頭に置いた小規模修繕を実施する。
- ④移動図書館車は、排出ガス規制等により今年度の入れ替えを実施する。他の日野・百草・多摩平・市政図書館(室)については現状を維持しつつも、利用者の利便性を高めるための工夫をする。

20年度の事業成果（当該年度の実績数値など）

- ①平成20年4月5日に平山季重ふれあい館が開館し、平山図書館の建替えが完了した。また、平成21年1月に平山地区センター跡地に仮設の臨時駐車場(11台分)を開設した。
- ②百草台児童図書館の役割をもぐさだい児童館に引き継ぐ方向で検討した。
- ③中央図書館は、地下移動書架、駐車場看板、空調機、漏水、漏電の修繕、高幡図書館は、2階ギャラリ照明増設、自動ドアの修繕、百草図書館は空調機、トイレバルブ感知器の修繕、日野図書館は自動ドアを修繕した。
- ④平成20年11月より11代目のハイブリッドの新移動図書館車「ひまわり号」が稼働を開始した。市政図書室の拡

事業の課題・問題（事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します）

「図書館基本計画」で取り上げられている図書館施設のうち、複合施設内の図書館として多摩平図書館と平山図書館がほぼ目標に近い形で実現できた。しかし、中央図書館、高幡図書館、日野図書館、百草図書館、市政図書室はいずれも施設面での課題が山積されている。また、移動図書館車の活用、百草台児童図書館の廃止、万願寺図書館の新設等、市内の図書館施設全体の配置について、総合的に見直しが必要な状況にある。

3. 事業費の推移（円）

項 目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度事業費の 決算の内訳
支出				
事業費	10,857,000	2,676,000	3,030,000	中央図書館 移動書架
職員人件費（1人888万円）	4,440,000	4,440,000	4,440,000	駐車場看板 空調機 図書返却 身障者用ト イレ 漏水 漏電 高幡図書館 2階照 明・自動ドア 百草図書館 空調機 トイレバルブ感知器等 日野図書館 自動ド ア その他修繕
収入				
国支出金				
都支出金				
使用料・手数料等(受益者負担額)				
その他特定財源				
一般財源	15,297,000	7,116,000	7,470,000	
総事業費	15,297,000	7,116,000	7,470,000	

当該事業に要する
職員の業務量（人）

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度課の職員数 (課長・臨時職員除く)
0.5	0.5	0.5	41

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	修繕料	円	5,000,000	5,000,000	5,000,000	19年度ベース	0％
実績値（B1）		円	10,857,000	2,676,000	3,030,000	19年度ベース	13％
達成度（C1＝B1／A1×100）		％	217	54	61	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	—	—	—	事業費	43

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	大規模改修・新設館(車)数	館	9.00	9.00	9.00	19年度ベース	0％
実績値（B2）		館	1.00	1.00	3.00	19年度ベース	200％
達成度（C2＝B2／A2×100）		％	11	11	33		
単位コスト	事業単価	円	—	—	—		

成果指標(アウトカム)目標・実績								(当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)	
区 分	成果を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較 (%)			
目標値 (D)						19年度ベース			
実績値 (E)						19年度ベース			
達成度 (F=E/D×100)		%							
単位コスト	事業単価	円							

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値							
○本基準に示す図書館サービスの水準を達成するため、開架・閲覧、収蔵、レファレンス・サービス、集会・展示、情報機器・視聴覚機器、事務管理などに必要な施設・設備を確保するよう努めるとともに、利用者に応じて、児童・青少年、高齢者及び障害者等に対するサービスに必要な施設・設備を確保するよう努めるものとする。							

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☒ 限定的な効果があった	☐ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☒ やや効率が悪い	☐ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☒ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☐ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	評価意見等	・財政的理由などにより、老朽化した施設設備の改修が進んでいない。 ・高幡図書館の2階ギャラリー照明増設、百草図書館の空調機修繕などを行い、市民サービスの増進に努めた。 ・移動図書館車をハイブリッド車で更新した結果、環境負荷の低減を図ることができた。	
	次年度以降の取組み	・緊急を要する施設設備の改修と修繕計画の作成を行うとともに、耐震診断の実施を要望する。 ・百草台児童図書館を廃止し、その役割をもぐさだい児童館に移転する。 ・移動図書館の有効利用を図る。	

図書館事業評価表 20年度

事業No.	6
事業担当係	京王線沿線7市・協力担当
記入者氏名	中山秀一・遠藤修次

1. 取組事業名

2009/11/10 15:30

取組事業名 (図書館基本計画から)	関係機関との連携・協力の強化を図ります	事業開始年度	昭和40年度
----------------------	---------------------	--------	--------

2. 取組事業の概要

取組事業の概要(事業の対象者、内容を市民にも分かるように簡潔明解に記載)

事業の内容	「図書館基本計画」に基づき、他市や都内の図書館との連携・協力を行う。 ・平成20年4月から開始した京王線沿線7市図書館連携事業により、八王子市・府中市・調布市・町田市・多摩市・稲城市在住の市民への資料貸出を行う。 ・日野市立図書館では所蔵していない資料を、都立図書館や他の市区町村図書館、国立国会図書館等から借用して市民に提供するリクエストサービスを行う。 ・市民の多岐にわたる資料要求、知的向上への意欲に応えるため、公共図書館間だけでなく大学図書館とも連携を図り、相互に資料貸借やレファレンスを行う。
-------	--

事業目的(当該事業を将来的にはどのような事業としていきたいのか、どのような成果を求めていくのか)

各市・各機関とも限られた図書予算のなかで、資料の提供を行っているため相互に資料を融通しあうことで、効率的な資料提供を行う。また、図書館連携により、行政境の市民の図書館利用を促進する。

20年度の事業目標(どのような目標を設定したのか)

20年度の事業成果(当該年度の実績数値など)

1. 京王線沿線7市図書館連携事業として
①開始時に図書館ホームページやポスター掲示・ちらし配布を行い広報に努める。
②新規利用者登録時に事業の紹介として各市での登録と利用方法の説明を行う。
2. リクエストサービスとして
①相互貸借により、リクエストされた資料をより迅速に提供し、利用者の満足度を上げる。
②相互貸借を上手に活用することで、今後の利用に有効かつ効果的な資料の購入に努める。
③市民の多様な調査・研究に応えるため、利用可能な多くの機関と連携し、より適切な資料を収集し提供する。

1. 京王線沿線7市図書館連携事業他市民利用(日野市民他市利用)
登録者数 1,322人(1,296人) 利用者数 12,630人
貸出冊数 32,554冊(65,354冊)
2. リクエストサービス
リクエスト総数 374,091冊(所蔵・購入数 366,110冊借用数 7,981冊)
(日野市借用先内訳 都立図書館 4,687冊 多摩地区 2,910冊 23区 262冊 国会・県立図書館他 122冊)
(日野市他自治体への貸出 5,504冊 貸出先内訳 多摩地区 5,078冊 23区 411冊 都外他 15冊)

事業の課題・問題(事業の目的や目標と現状とのギャップを記入します)

1. 京王線沿線7市図書館連携事業
京王線沿線7市との連携事業が浸透するにしたいが、貸出の冊数が増加している。19年度より、貸出冊数が減少したのは、多摩市との相互利用での、「冊数制限無し」を、20年度から「5冊」に制限したためである。
2. リクエストサービス
・最近では県立図書館との相互協力も広まり、より多様なリクエストに応えられるようになった。しかし、その場合には、送料もかかるため、このサービスの充実には郵送費の予算を確保する必要がある。
・都立図書館改革(貸出期間短縮と館内閲覧)の見直しの要望

3. 事業費の推移(円)

項目	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度事業費の決算の内訳
支出				・嘱託職員報酬
事業費	2,168,015	3,666,180	3,348,021	
職員人件費(1人888万円)	19,536,000	15,984,000	15,096,000	
収入				
国支出金				
都支出金				
使用料・手数料等(受益者負担額)				
その他特定財源				
一般財源	21,704,015	19,650,180	18,444,021	
総事業費	21,704,015	19,650,180	18,444,021	

当該事業に要する職員の業務量(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成20年度課の職員数(課長・臨時職員除く)
	2.2	1.8	1.7	41

4. 指標・コスト

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅰ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A1）	資料貸出冊数	冊	29,575	35,569	33,502	19年度ベース	-6%
実績値（B1）		冊	33,875	41,334	35,911	19年度ベース	-13%
達成度（C1=B1／A1×100）		％	115	116	107	市民1人当たりのサービス経費（円）	
単位コスト	事業単価	円	641	475	514	事業費	105

活動指標(アウトプット)目標・実績Ⅱ（当該事業の活動量の目標や実績を数値で表します=参加者数など）							
区 分	活動量を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較（％）	
目標値（A2）	借受冊数	冊	6,814	7,789	8,565	19年度ベース	10%
実績値（B2）		冊	7,712	8,481	7,981	19年度ベース	-6%
達成度（C2=B2／A2×100）		％	113	109	93		
単位コスト	事業単価	円	2,814	2,317	2,311		

成果指標(アウトカム)目標・実績							
(当該事業の目的としている成果指標の目標や実績を数値で表します)							
区 分	成果を計るための指標	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	前年度比較 (%)	
目標値 (D)	利用者満足度					19年度ベース	
実績値 (E)						19年度ベース	
達成度 (F=E/D×100)		%					
単位コスト	事業単価	円					

5. 参考基準・数値

文部科学省基準・図書館専門委員会参考数値							
○公立図書館は、資料及び情報の充実に努めるとともに、それぞれの状況に応じ、高度化・多様化する住民の要求に対応するため、資料や情報の相互利用等の協力活動の積極的な実施に努めるものとする。その際、公立図書館相互の連携(複数の市町村による共同事業を含む。)のみならず、学校図書館、大学図書館等の館種の異なる図書館や公民館、博物館等の社会教育施設、官公署、民間の調査研究施設等との連携にも努めるものとする。							

6. 評価

自己評価	事業目的に対する効果	☐ 非常に大きな効果があった ☐ 限定的な効果があった	☒ 大きな効果があった ☐ 効果がなかった
	事業の効率性	☐ 非常に効率が良い ☐ やや効率が悪い	☒ 効率が良い ☐ 効率が悪い
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 維持・継続	☒ 見直して拡大・充実 ☐ 見直し
	評価意見等	・京王線沿線七市図書館連携事業の開始により、本市図書館から離れた行政境周辺市民などの利便性が上がった。 ・都立図書館改革の見直しを市町村立図書館長協議会の一員として要望した。	
次年度以降の取組み		1. 京王線沿線七市図書館連携事業 ・利用者へのさらなる広報。 ・貸出冊数制限5冊を見直すかの検討。 2. リクエストサービス ・市内の大学図書館だけでなく、近隣市の大学図書館との連携を広めていく。 ・市町村立図書館長協議会等を通じ都立図書館改革の見直しを要望する。	

6 資 料

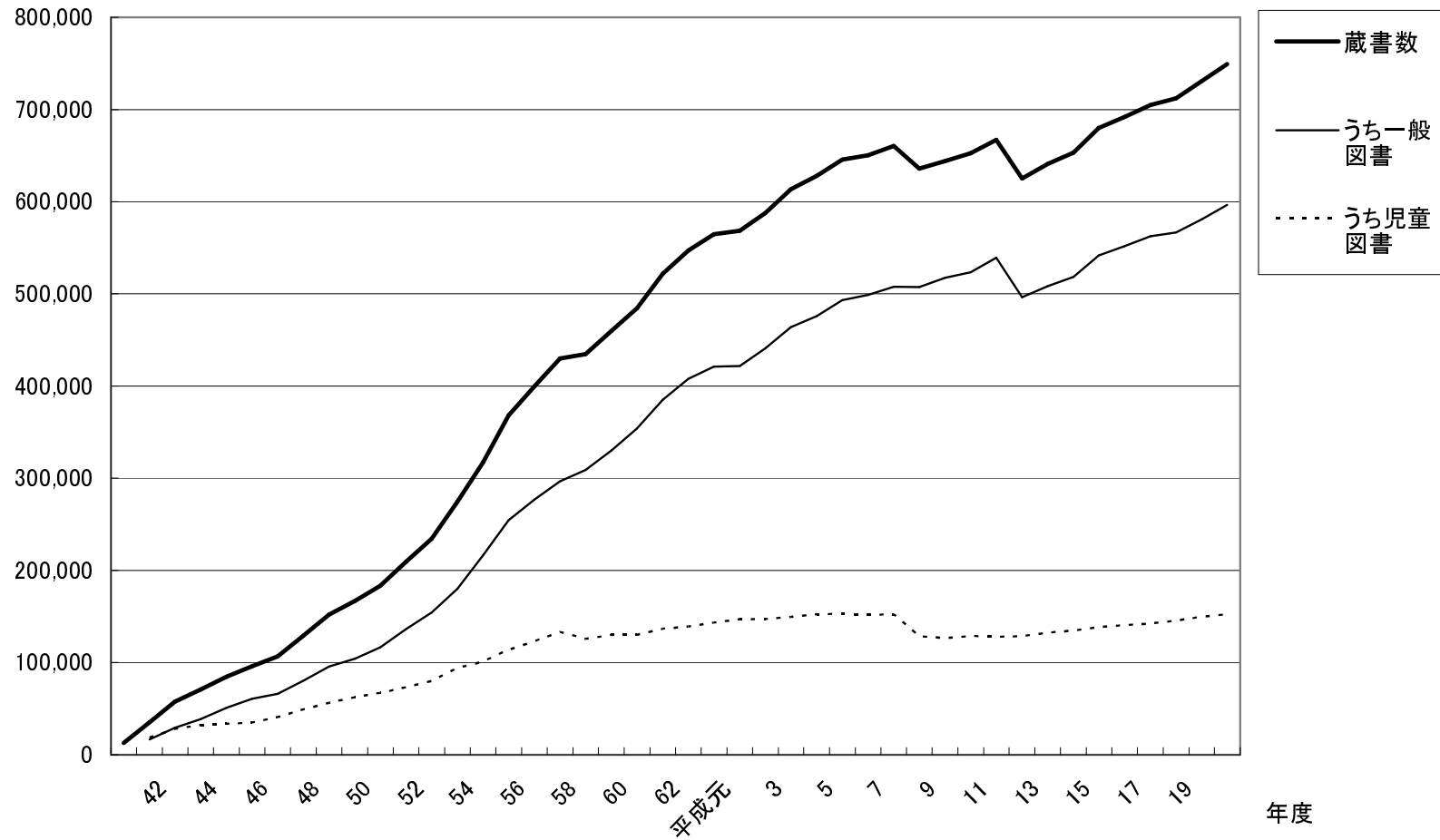
「貸出活動上位の公立図書館における整備状況」の数値

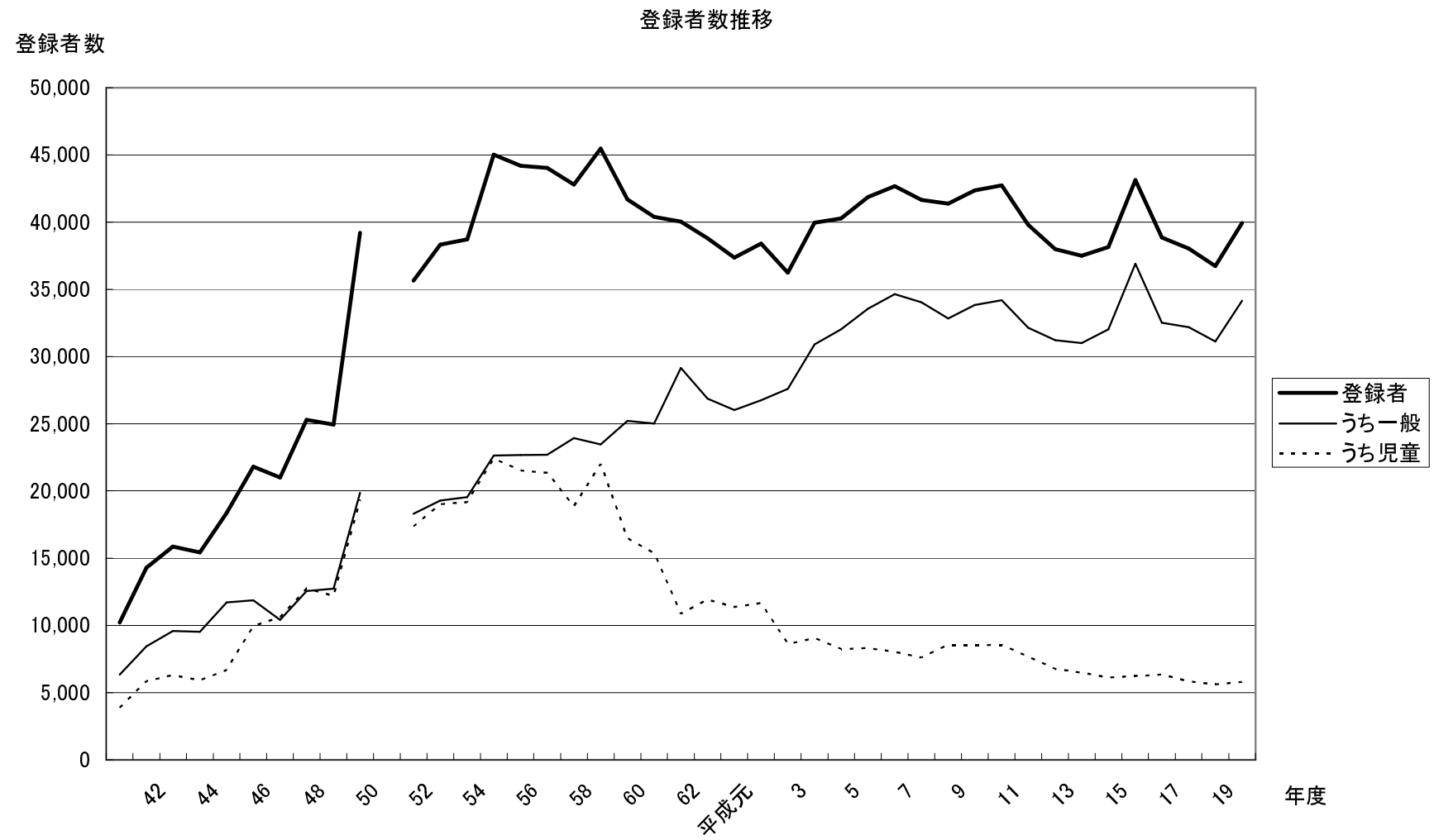
人口段階	10～30万人(A)	日野 20年度(B)	日野 19年度	指数比 (B/A)	注記
平均人口	140,800	173,481	172,549	123%	
延床面積 m ²	5,437	6,305	6,305	116%	
蔵書冊数	547,353	749,186	730,564	137%	
開架冊数 (内数)	335,203	560,000	560,000	167%	概数
開架に占める新規図書比	10.90%	7.29%	7.60%	67%	
視聴覚資料点数	18,809	3,796	3,684	20%	
年間購入雑誌数	615	959	989	156%	
資料費 (千円)	74,629	67,836	77,658	91%	
人口一人概算(円)	550	391	450	71%	
人口一人年間貸出点数	10	9.33	8.57	93%	
職員数	53	79.4	81.5	150%	非正規職員含む
うち有資格者	25	30	30	120%	

「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（図書館法第18条の規定に基づき、平成13年7月18日告示（文部科学省告示第132号））の告示にあたり、平成12年12月「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について（報告）」生涯学習審議会社会教育分科審議会計画部会図書館専門委員会の参考資料として示された。

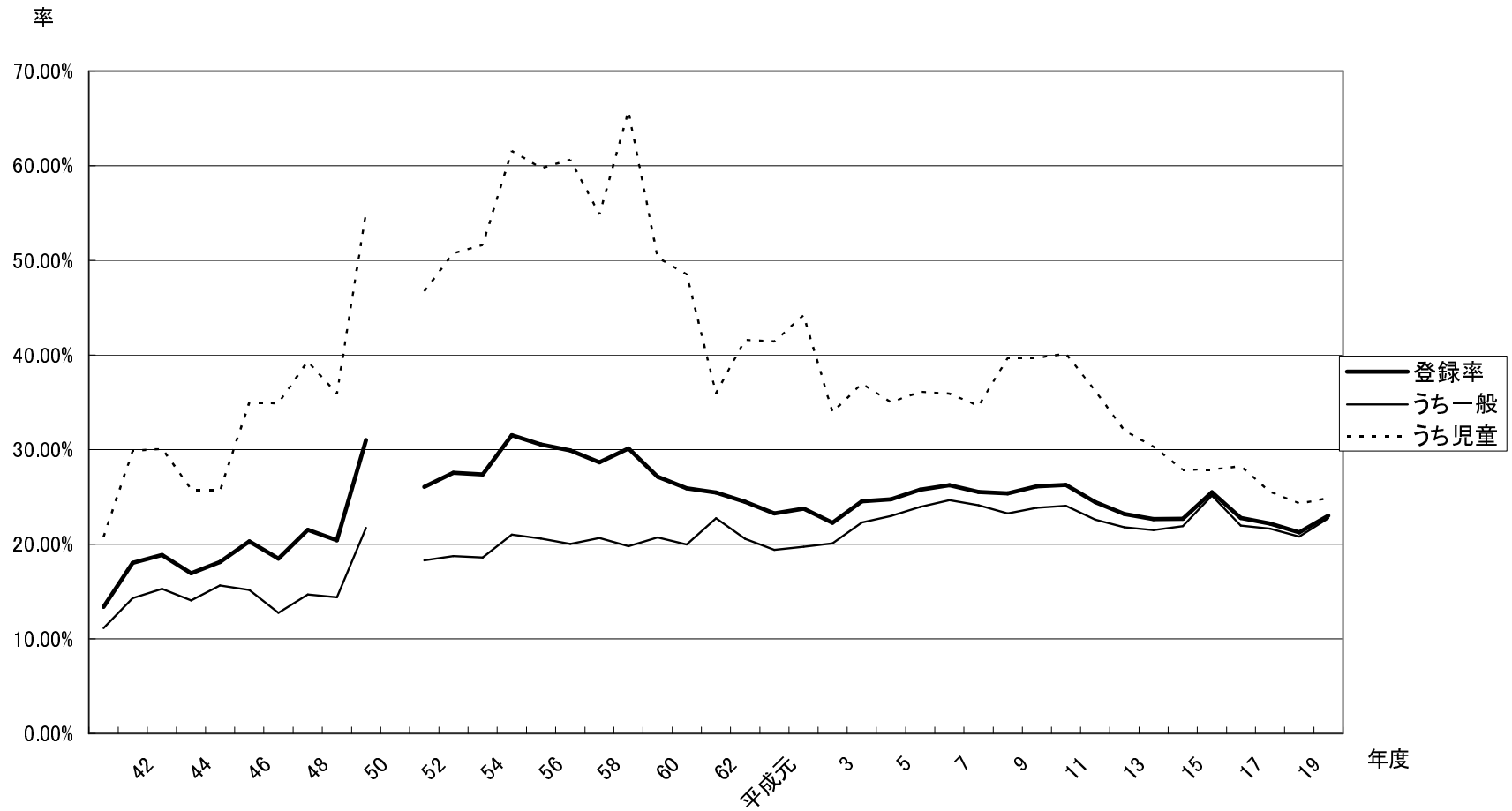
蔵書数推移

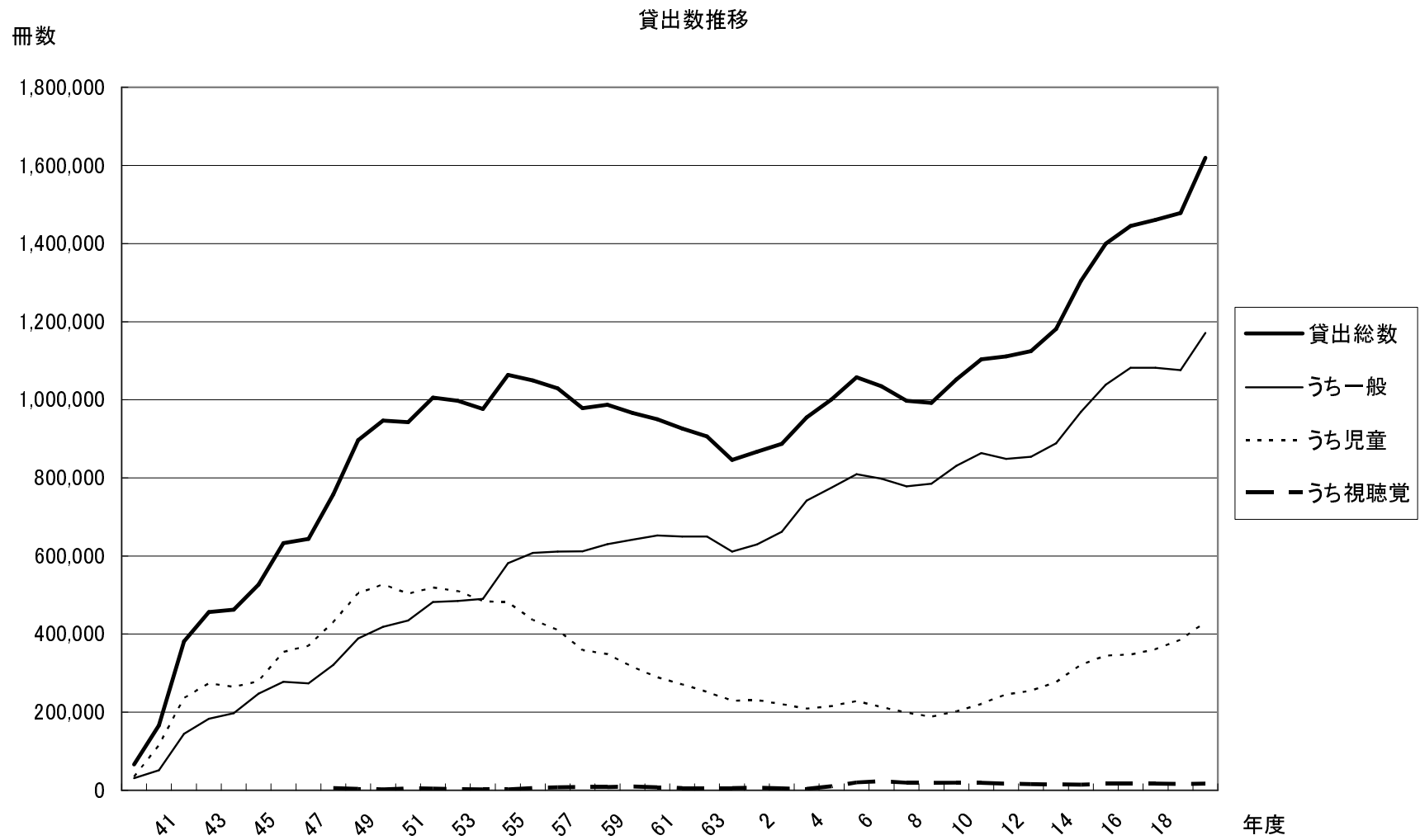
蔵書冊数

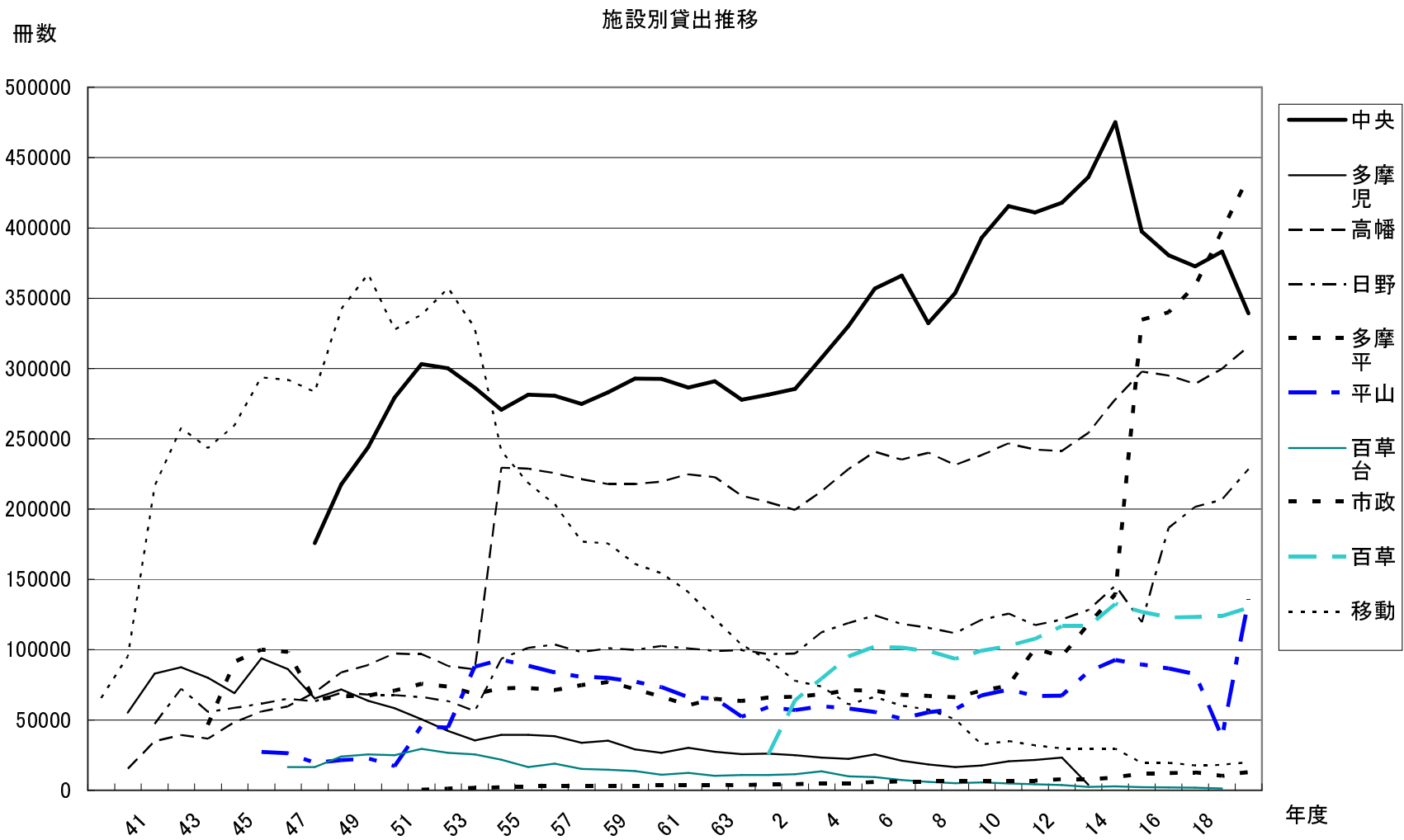




登録率推移







日野市立図書館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日

(目的)

第1条 この要綱は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3に規定する、図書館の運営の状況に関する評価等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市立図書館（以下「図書館」という。）は、毎年1回、図書館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 図書館は、図書館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 図書館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 図書館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 図書館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、図書館庶務整理係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、図書館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

《図書館協議会委員名簿》

委員長	有山	至	社会教育委員
副委員長	中嶋	ヒロ子	国際交流協会顧問
委員	内田	千代子	利用者
委員	小川	吉造	利用者
委員	加地	勝	利用者
委員	中島	和夫	校長
委員	二村	健	明星大学教授
委員	野田	恭子	利用者

平成 21 年度 日野市立図書館の
運営の状況に関する評価書

(平成 20 年度事業)

くらしの中に図書館を

—市民に役立ち、共に歩む図書館—

平成 21 年 9 月

日野市教育委員会図書館

〒191-0053 東京都日野市豊田二丁目 49 番地

電話 042－586-0584

FAX042－586-0579